

令和 2 年第 3 回定例会一般質問

9 月 9 日（水）

15 番 佐藤 辰己 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 自治会の現状 と今後は	① 自治会数のこれまでの動向と本年度の数は。 ② 自治会統合を解消した地域があると聞 くが、その原因はどこにあると捉えてい るのか。	市長	
2 全国育樹祭と 環境整備につい て	① 新型コロナウイルスの関係で、本年予 定されていた北海道開催が延期されまし た。 本市の今後の対応は。 ② 県道の三重野津原線（藤北工区）の未 整備区間に対する市の考えと県の対応 は。	市長	

14番 首藤 正光 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 農業用水路の 安全対策につ いて	① 市内の農業用水路の危険箇所の把握と 現在の取組について。 ② 今後、市としてどのような安全対策に 取り組んでいくか。	市長	
2 市営住宅につ いて	① 市営住宅の目的は。 ② 市営住宅は賃貸住宅の経営を圧迫して いないか。 ③ 市内の空き家・空室が多くあるが、市 はこれを利用できないか。	市長	

1 番 後藤 雅克 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 介護保険料について	第 8 期介護保険料設定に対する考え方について。	市長	
2 ケーブルテレビ事業について	高校野球大会の放送について。	市長	
3 担い手不足について	<p>少子高齢化、人口減少社会の中で、担い手不足が、様々な業界で問題になっている。そこで、本市における担い手不足の現状と今後の対策について伺う。</p> <p>① 建設業の担い手不足について。</p> <p>② 林業の担い手不足について。</p>	市長	

13番 衛藤 正宏 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 新型コロナウイルス感染症対策について	<p>① 国は、地方自治体が行う新型コロナウイルス感染症対策を支援するため、地方創生臨時交付金を支給する。 本市の感染症予防対策事業の概要と趣旨を伺う。</p> <p>② 収束を想定できない新型コロナウイルス感染症。長丁場に備え、感染拡大を防止する新しい生活様式に移行することが大切であると言われている。 市の対策を伺う。</p>	市長	
2 熱中症対策について	市内の熱中症の現状と対策について伺う。	市長	

9月10日(木)

7番 赤峰 映洋 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 外国人労働者を雇用している事業所及び外国人労働者の状況	全国的に外国人労働者が増加している要因の一つとして、技能実習制度の活用により、技能実習生の受け入れが進んでいることが背景にあるが、本市においての実態はどうかを伺う。	市長	
2 高齢者ドライバーが安全に安心して運転できる道づくりを	高齢化により、運転免許証を返納するドライバーがいるが、それはまだごく一部の方々の場合で、7か町村が合併した広大な面積の本市では、高齢者といえども日常生活に自動車は欠かせません。今後も増加する高齢者ドライバーが安全に安心して運転できる道づくりが必要ではないでしょうか。現在、市道の改良や維持補修整備において、高齢者対策をどのように捉え、行っているのかを伺う。	市長	

6番 川野 優治 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 インフラの老朽化について	今後、インフラ施設（橋、トンネル、水道等）の老朽化が進み、その維持管理費が増大することが懸念されているが、本市ではどのように予想しているのか。	市長	
2 一般社団法人 ぶんご大野 里 の旅公社について	5年前、観光協会を発展させる組織として設立された里の旅公社は、予算、権限、扱う事務等で観光協会とどのように変わったのか。そして、市はこの変化をどう評価しているのか。	市長	

3番 吉藤 里美 議員

質問事項	質問の趣旨	答 弁 を 求めた者	答弁者
1 旧大野高校跡地利用について	<p>現在、旧大野高校跡地には、市の施設である大野公民館、ケーブルテレビセンターがあり、さらに、26区画の宅地分譲により、既に20世帯の方が居住しています。</p> <p>住宅には、児童・未就学児も多く、遊び場所を望む声が多く聞かれていますので、ぜひご検討いただきたいと思います。</p> <p>また、公民館の指定管理制度についての利用者説明会では、来年4月以降も、体育館は現状のまま利用するとのことでした。しかし、その体育館には、トイレ・水道もなく、衛生上大変問題であり、トイレと水道の設置が必要です。住宅地もあり、来年3月に完成する新公民館に移転したあと、現公民館の建物が使われないまま何年もあるのは防犯上好ましくないと思います。跡地利用についてはどのようなお考えをお持ちなのか伺います。また、今後のスケジュールも併せて伺います。</p>	市長	
2 野菜の生産振興について	<p>「大分の野菜畑」を自負する本市において、戦略品目である夏秋ピーマン、白ねぎ、高糖度かんしょについては、「The・大分ブランド」の主要産地となっており、夏秋ピーマンは西日本でも有数の産地です。</p> <p>このことは、平成28年3月に策定した「第3次農業振興計画」により進められた産地化・ブランド化の取組の成果であると思います。その第3次の振興計画は、今年度が</p>	市長	

	<p>5か年の最終年度であり、以下について伺います。</p> <p>① 上記3品目の振興目標の達成状況について。</p> <p>② 「産地の維持・拡大（高品質・安定生産）」についての現状と今後の取組は。</p> <p>③ 「担い手の確保」についての現状と今後の取組は。</p> <p>④ 第4次計画の柱をどう考えているか。</p>		
<p>3 豊後大野市の魅力発信と移住定住策について</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、地方での暮らしが見直されています。6月に内閣府が行った調査結果では、三大都市圏の居住者で、地方移住への関心が高くなった人は15.0%で、若い世代ほどその比率が高く、東京23区に住む20代に限ると35.4%だったとのこと。</p> <p>テレワークの導入など働き方を変えた企業もありますし、多くの方が生き方そのものを考えなおす機会になったのではないのでしょうか。</p> <p>今こそ、移住定住者を呼び込む大きなチャンスと考えます。</p> <p>今後の市の魅力発信と移住定住策について伺います。</p>	<p>市長</p>	